

群 教 セ	G02 - 05
	令7.290集
	地理歴史

# 多様な学びを結び付けながら 歴史的事象を考察できる生徒の育成

——他教科連携と協働的探究活動を通して——

特別研修員 細谷 実路

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編では、「生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成すること」を掲げ、そのために思考力・判断力・表現力の育成や、資料を活用した学習の充実を重視することが示されている。また、地理歴史科の目標として「地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察」することが求められている。これらの方向性は、単に事象の知識を得るだけでなく、資料を根拠に多様な視点から思考し、自分の考えを形成し表現する学習の重要性を示していると言える。従って、歴史的な事象を複数の立場や資料に基づいて捉え、根拠を基に考えを共有し、他者の見方と照らし合わせながら再構成していく学習過程を授業に位置付けることは、地理歴史科の目標に即した教育実践である。

研究協力校の生徒は、学校行事では互いに協力し合いながら活発に活動する姿が多く見られ、学年や学級の枠を超えた一体感がある。一方で学習場面においては、複数の視点を関連付けて考えたり、資料から根拠を取り出して主張と結び付けたりする力が十分に育っていない。指示された内容には取り組めるものの、自ら問いを立てて仲間と意見を共有しながら多面的・多角的に考えを深めることに課題が見られる。そのため、授業の中で、仲間と考えを共有し、様々な視点から思考を深め、広げていく学習機会の充実が必要である。

このような実態を踏まえ、生徒には歴史的課題を多様な立場や資料を手掛かりに考察してほしいと考える。また、様々な立場や考え方に触れて、物事を多面的・多角的に捉える姿勢を培うとともに、自らの考えを根拠に基づいて説明し、他者の考えを踏まえて修正・深化させる力を育てたい。

そのため、他教科の学びと歴史の学習内容を関連付けて多様な視点を取り込み、他者との意見交流を通して思考を広げる協働的な学びを重視した。併せて、根拠に基づいて形成した自らの考えを他者と共有し、対話を通して思考を深める力の育成を目指し、本研究テーマを設定した。

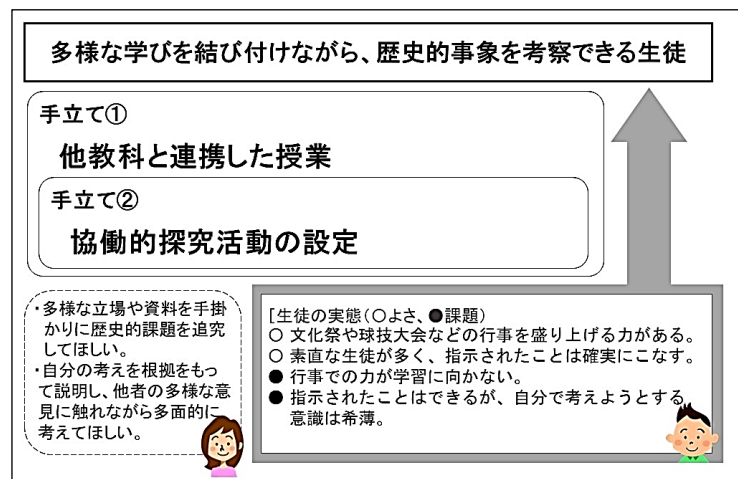


図1 研究のイメージ

### 2 具体的な手立て

#### 手立て1 他教科と連携した授業

学習内容を他教科の学びと関連付けることで、歴史的な事象を多面的・多角的に捉える力を高める。数学科で身に付ける「データの分布や傾向を読み取る力」、国語科で身に付ける「言葉や表現から背景を読み解く力」、英語科で身に付ける「英文の読解力」など、他教科で培った力を歴史の学習に結び付けることで、生徒が一つの出来事について複数の視点から捉えられるようにすること

をねらいとする。

具体的には、資料を扱う際に、他教科で学んだ見方・考え方を想起できるよう、授業内で「どの力を使うか」を明示する。授業運営としては、歴史科教員が単独で他教科につながる資料や視点を取り込むことを基本としつつ、必要に応じて他教科の教員が助言・協力して学習を支援するなど、状況に応じて柔軟に調整する。こうした連携を通して、生徒が複数の視点を関連付け、歴史的事象を捉えることを目的とする。

## 手立て 2 協働的探究活動の設定

生徒が他者との対話を通して自らの考えを広げ、深めていくことをねらいとした。多様な資料や立場に基づく意見交換の場を設定し、複数の視点から課題を捉える学習活動を構成する。実際の授業では、ジグソー活動による役割分担と共有、ロールプレイによる立場別思考の疑似体験、一つの歴史的事象について「なぜそうなったのか」を根拠とともに提示し、その意見を交換し合う討論活動など、協働的に取り組む複数の方法を取り入れる。生徒が、自分の考えを他者の見方と照らし合わせながら考えをまとめていく場を設定する。これにより、生徒は自分とは異なる見方や根拠に触れながら新たな視点に気付き、自らの考えを再構成していくことができる。

その際、根拠を明確にして意見を述べること、他者の意見との共通点や相違点を踏まえて考察すること、異なる視点に気付きながら思考を発展させることを重視する。

また、本時の問いの解答をまとめる場面では「GBQシート」を用い、対話を通して得た手掛かりや根拠を整理し、本時の問いに対するグループとしての答えを導く。必要な場面で「GBQシート」を活用することで、協働的探究で生まれた多様な視点を整理・統合し、思考の過程を可視化する。

「GBQシート」とは、振り返りのフレームワークとして用いられる「KPTシート（Keep・Problem・Try）」を歴史学習の目的に合わせてアレンジしたものである。GBQの各要素は、G=Good（歴史的事象に関するよい点・肯定的に捉えられる点）、B=Bad（歴史的事象に関する課題点・問題点）、Q=answer to Question（本時の問いへの解答）を示している。生徒は学習の終末に、グループで本シートに入力する。その過程で対話によって得た手掛かりを整理し、本時の問いに対するグループとしての答えを導き出す。

## II 実践例

### 1 単元名 歴史総合「経済危機と第二次世界大戦」（第1学年・2学期）

### 2 授業の実際

本単元は、必修科目「歴史総合」の大項目「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち（2）経済危機と第二次世界大戦」に位置付けられ、20世紀前半の国際社会が不安定化していく中、各国が政治的・経済的課題にどう向き合い、最終的にどのように戦争へと至り、どのように終結したのかを多面的・多角的に考察することを目的とする。

本時は全6時間計画の第5時に当たる。導入では前時の学習を振り返り、戦間期の国際情勢を復習した上で、英文入りの風刺画と本時の問い「なぜ国際社会は再び戦争へと向かったのだろうか？」について確認した。風刺画は、戦争の神アレスを中心に各国が矛盾を抱えたまま走らされ、背後に無力化した国際連盟が置かれるという構図であり、短い英文や図像表現から当時の国際社会の視点と政治的意図を読み取らせたい。展開では、各国の立場ごとに分かれて英文と図像表現を分析するエキスパート活動を行い、その後のジグソー活動で分析結果を共有して、国際社会が再び戦争へ向かった要因について探究した。

(1) 手立て1について

本実践では、英文入りの風刺画を教材として扱うに当たり、主に英語科で身に付けた「英語の読解力」を歴史の資料読解に結び付けることを意図し、英語科とのティーム・ティーチングを実施した。授業では、生徒は各国の立場に分かれ、英文の意味を確認しながら資料の意図を読み取る作業を進めた(図2)。授業者は、資料読解における視点(登場人物が示す図、図像表現が伝える意図など)を提示し、生徒が資料を根拠に考えを表現する活動を円滑に進められるようにした。英文の語句や文構造を正確に理解し、資料の内容を的確に読み取れるよう、英語科教員が同席して助言・指導を行った(図3)。これにより、生徒が英語の情報を手掛かりに資料の内容を把握し、各国の立場や表現の違いを整理する活動を進めることができた。

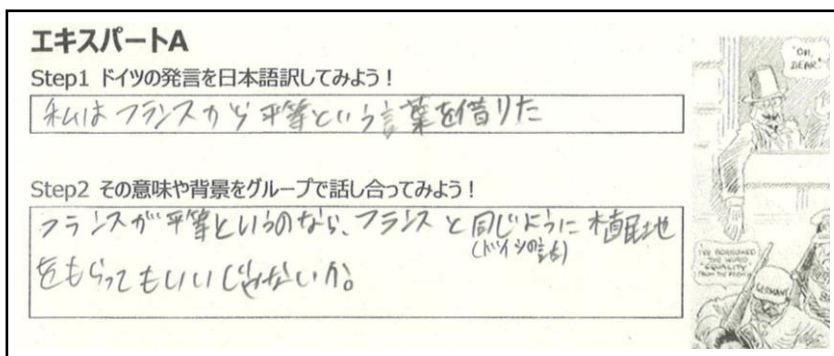


図2 生徒が英訳等を行ったワークシート



図3 英語科教員による指導

(2) 手立て2について

本実践では、対話を通して自らの考えを広げ、深めていくことをねらいとして、協働的な探究活動にジグソー法を活用した。

各国(日本・アメリカ・ドイツなど)の立場に分かれたエキスパート活動では、各国の視点から風刺画の構図や英文を分析し、国際関係の特徴を整理した。続くジグソー活動では、各国の立場を担当した生徒が集まり、根拠を示しながら意見を交換し、戦間期の国際社会が再び戦争へと向かった要因を多面的・多角的に考察した。話し合いの際には、根拠を明確にして意見を述べることに加え、他者の意見との共通点・相違点を踏まえて考察することを意識した(図4)。また、活動の最後には「GBQシート」を活用し、対話を通して得た手掛かりを整理した上で、本時の問いに対するグループとしての解答を導いた。さらに、「GBQシート」への入力結果をクラウド上で共有することで(図5)、各グループの整理内容を相互に確認し、視点の偏りや根拠の違いに気付きながら、学級全体で学びを共有できるようにした。



図4 協働して探究活動を行う様子

8班	
<p>G: 一次大戦後の国際秩序で評価できること(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連盟を設立し、戦争を抑止する仕組みを作った。</li> <li>・軍縮や安全保障を目的としたフシントン体制を確立した。</li> <li>・それぞれの民族が国家を持つための民族自決の原則を定めた。</li> </ul>	<p>Q: 本時の問い(国際社会はなぜ再び戦争に向かったの?)</p> <p><b>世界恐慌の発生</b>により、植民地を持っている国と持っていない国に差が生じ、植民地を持っていない国が<b>植民地獲得の為</b>の戦争に走り、<b>国際連盟はそれを止めることができなかった</b>。</p>
<p>B: 一次大戦後の問題点(悪かった点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏: 借金を返済出来ていなかった。</li> <li>・米: 周囲に流されるように行動していた。</li> <li>・伊: 力で問題を解決しようとしている。</li> <li>・日: 戦争に進んで参加しようとしている。</li> <li>・国連: 戦争に向かう国際社会を止められていない。</li> <li>・独: 平等という言葉を悪用して植民地を持つとした。</li> </ul>	

図5 グループで作成した「GBQシート」(例)

### 3 考察

生徒のワークシートや授業後のアンケートには、「英文を日本語訳する中で、当時その国がどのような状態だったのかを知ることができた」「英文風刺画のセリフによって、国際情勢が端的に表されていたのが印象的だった」「風刺画から、その国の権力の強さやその国が国際社会の中でどのような存在だったかを学べた」といった記述が見られた。ここから、生徒が英文の内容と図像表現を結び付けながら歴史的事象を捉えようとする姿がうかがえる。一方で、「英語が難しい」という記述もあり、生徒によっては英語科における知識・技能面での負担が大きいことも確認された。

協働的探究活動に関して、「自分と友人の考えをすり合わせることで、新たな発見があった」「違う視点からの意見が聞けて、新しい考え方を知ることができた」「様々な意見と自分の意見を照らし合わせて考えた」といった記述が多く、自分の見方を広げていたことが分かった。また、「役割ごとに協力できて分担の仕方が分かった」「人と考えを共有し、一つの意見にまとめる力が身に付いた」との声もあり、エキスパート活動・ジグソー活動が異なる立場や視点の交流を促し、協働的に考えを整理する場として機能していたことも確認された。

年間を通して行ってきた数学科や国語科との連携においても、生徒がその教科で得た技能や考え方を歴史学習に結び付けようとしていた。数学科と連携した学習では、箱ひげ図を用いて植民地化の広がりを読み取る活動を行ったことで、「数学の知識を活用して歴史を考えることができた」「歴史をデータで読み解く重要性に気付いた」といった記述が見られ、数学的な視点を歴史的事象を理解する上で取り入れている様子が確認された。また、国語科と連携した学習では、小説『1984年』（ジョージ・オーウェル）の記述と実際の独裁政治を比較する中で、「小説と結び付けて考えることで、当時どのように言葉を利用していたのかを分かりやすく理解できた」「独裁政治の恐ろしさが分かった」などの記述があり、文学作品の叙述から歴史的事象を捉えることができていた。こうした実践から、他教科での学びを歴史的事象に関する資料読解や考察に接続することは、歴史的事象を様々な視点から捉える学習の促進につながると考えられる。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 授業における他教科との連携により、生徒は英語・数学・国語で得た技能や考え方を歴史の学習に結び付け、歴史的事象を一つの側面からではなく、多様な視点から考えることができた。
- 協働的探究活動では、生徒が互いの意見を交換しながら、自分にはなかった見方に気付いたり、意見を比較しながら考えを整理したりする姿が確認された。また、考えをグループでまとめ表現する場面を設定したことで、思考の過程を可視化しながら課題解決に向かう姿が見られた。

### 2 課題

- 他教科に苦手意識をもつ生徒にとっては、他教科との連携が負担となる場面が見られた。英文資料を扱った授業では、内容理解以前に言語面の難しさがつまずきとなり、思考を深める前段階で戸惑う生徒が存在した。その結果、協働的探究活動において発言が一部の生徒に偏る班もあった。今後は、全ての生徒が積極的に活動できるグループ編成や個別支援の工夫を講じる必要がある。
- 他教科との連携を円滑に進めるためには、事前の打ち合わせや教材研究、授業設計に多くの時間を要することが明らかとなった。今後は、教科間で授業のねらいや資料の扱い方、評価の見取り方法などを共有できる共通フォーマットを整え、連携の負担を軽減する仕組み作りが必要である。

#### IV 資料

##### 1 英語科と連携した授業に関わる資料（生徒が使用したワークシート）

No.20 第二次世界大戦と風刺画  
○本時の問い：なぜ国際社会は、再び戦争へと向かったのだろうか？

**エキスパートA**  
Step1 ドイツの発言を日本語訳してみよう！  
Step2 その意味や背景をグループで話し合ってみよう！  
Step3 アメリカの発言を日本語訳してみよう！  
Step4 その意味や背景をグループで話し合ってみよう！

**エキスパートB**  
Step1 イタリアの発言や看板の文字を日本語訳してみよう！  
Step2 その意味や背景をグループで話し合ってみよう！  
Step3 日本はどんな顔をしている？また、なぜなぜそのような顔をしているのだろうか？

**エキスパートC**  
Step1 アレスは何をしているように見える？  
Step2 看板の文字を日本語訳してみよう！  
Step3 一次大

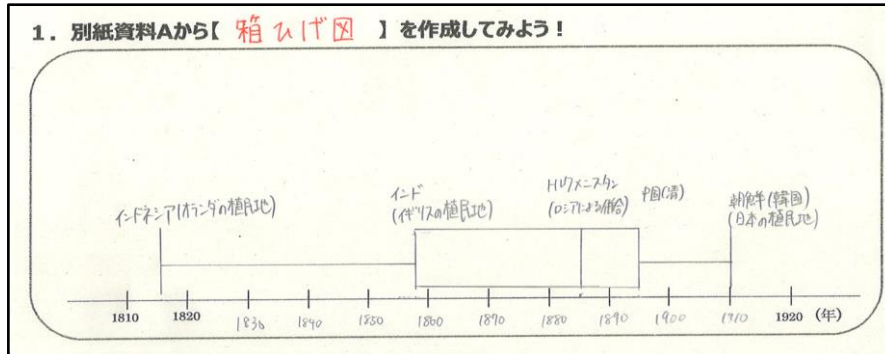
**エキスパート**  
Step1 フランス  
Step2 その意  
Step3 連語が

1年

※風刺画に記載されている英文  
看板の文字：League of Nations  
- Underwriters of Versailles Treaty.  
**国際連盟のセリフ**：「OH, dear!」  
**アメリカのセリフ**：I s'pose I'll have to trail along.  
**ドイツのセリフ**：I've borrowed the word 'Equality' from the French.  
**イタリアのセリフ**：I may have to muscle in if there's any trouble.  
**フランスのセリフ**：I'd better hurry up and pay a pittance on my war debts.

各国が戦神アレスに追いかけており、それを国際連盟が傍観している様子を表した英文入りの風刺画

##### 2 数学科と連携した授業に関わる資料（生徒が作成した箱ひげ図）



##### 3 国語科と連携した授業に関わる資料

###### ①小説『1984年』と比較する際に使用した資料

<p><b>資料 C ナチス政権のスローガン</b> 「1つの民族 1つの帝国 1人の指導者」</p>
<p><b>資料 D ナチス政権下で歌われたドイツ国歌第1節（1番）</b> ドイツよ、ドイツよ、すべての物の上にあれ 世界のすべての物の上にあれ 護るにあたりて 兄弟のような団結があるならば マース川からメーメル川まで エチユ川からバルト海まで ドイツよ、ドイツよ、すべての物の上にあれ この世のすべての物の上にあれ</p>
<p><b>資料 E ゲシュタポの権限に関する法令（1936.2.10.）</b> ・ゲシュタポの命令や措置は、行政当局によって審査されることはない。 ・ゲシュタポの措置に対する不服申し立ては認められない。 ※ゲシュタポ：秘密国家警察。民間人の監視・密告制度・言論や思想的異端を弾圧する機関。電話・郵便・住居の捜索などを通じて言論の自由を制限した。</p>
<p><b>資料 F 「保護拘禁」</b> 法的な手続きを経ず（人を裁判所にかけることなく）、ゲシュタポが「国家と民族の安全」という理由で個人を逮捕・拘束する制度。言論・思想の自由が恐怖によって抑制される。</p>
<p><b>資料 G ヒトラーのライヒスターク演説（1933.3.23.全権委任法審議）</b> 政府は、新聞とラジオが国民的覚醒のために用いられるようにする。</p>

###### ②生徒が作成した「GBQシート」

<p><b>G(ヒトラー政権で評価できるもの)</b> 政府の行動が早い。 企業からの干渉が入らない。</p>	<p><b>Q(本時の問い：今後予想される結果)</b> いつか限界が来る。 戦争を平気で起こす。 いつか国民が反発する。</p>
<p><b>B(ヒトラー政権における課題点・問題点)</b> 監視社会。 拷問。 国民を騙す洗脳。 国民の意見が通らない。 軍部の台頭。</p>	<p>人口減少。 国の崩壊。 表現の自由が制限される。 <b>!!!</b> 国家の維持が難しくなり、短期間しか持たない弱国になる。</p>